

トモエガモの飛来数が増えている？

トモエガモは体長 40cm ほどの小型のカモで、極東ロシアで繁殖し、日本、韓国、中国で越冬しています。大群で暮らす習性があり、最大の越冬地がある韓国南西部では数十万羽のトモエガモが一団となって飛行する姿が見られるそうです。日本でもかつては万単位の群れが観察されていたようですが、現在は環境省レッドリストの絶滅危惧 II 類 (VU) に指定されています。このトモエガモが 2020/21 年調査 (2020 年 9 月から 2021 年 5 月まで。以下同様に、調査期間を示します) で、例年よりかなり多く観察されました (図 1)。トモエガモは全国で見られますが、モニタリングサイト 1000 では日本海側のサイトに多く飛来しています。なお、サイトではないものの、千葉県北印旛沼では毎年数千～数万羽が飛来しているとの情報もあり、太平洋側でも飛来数の多い場所があるかもしれません。

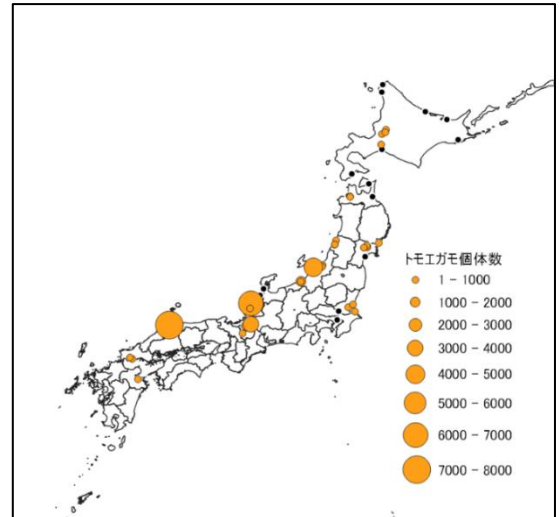


図 1. 2020/21 年のトモエガモ飛来数
黒点は記録がなかったサイト



図 2. トモエガモの群れ (撮影 高野茂樹)

2013/14 年と 2019/20 - 2020/21 年に飛来数が多かった

トモエガモは「全国的に飛来数が多い年」があると言われていています。実際にそうした「当たり年」があるのか、地域別の飛来数の変化を整理しました (図 3)。飛来数の単純比較では、数の多いサイトの結果に影響されるため、サイトごとに「2004/05～2020/21 年の最大飛来数」に対する「各年の最大飛来数」を「個体数指標値」として算出し、各サイトの個体数指標値を地域ごとに合計した値*を積み上げグラフで示しました。棒グラフで多数の色が大きな数値で出ている年が、各地でトモエガモが多かった年です。年内に地域をまたいで移動していないと仮定すると、トモエガモは 2013/14 年と 2019/20-2020/21 年に多かったようです。

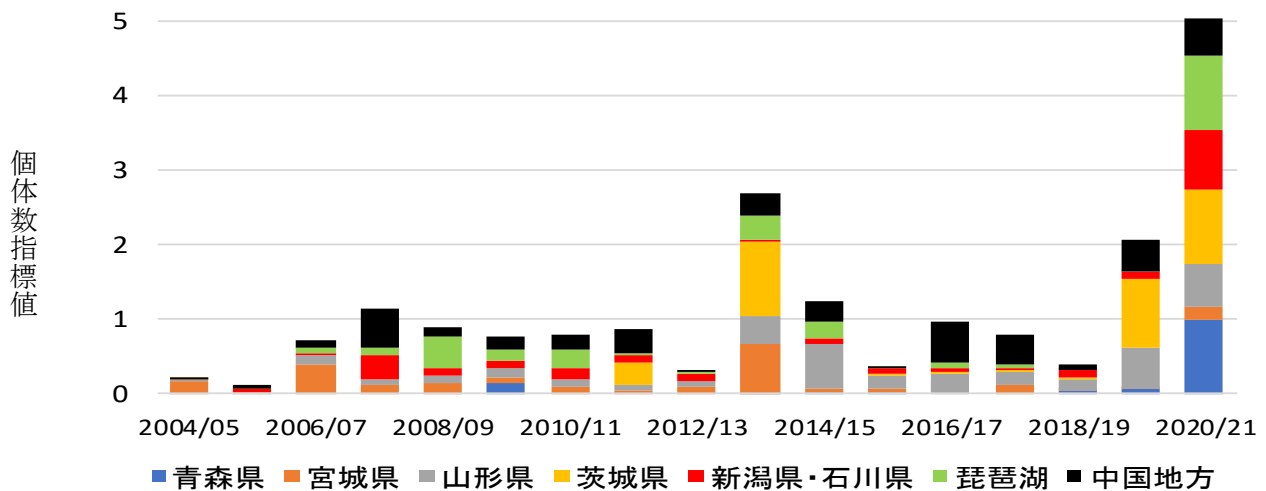


図3. トモエガモの地域別出現比率

※各地域のサイトごとに「各年の最大飛来数／2004/05～2020/21年の最大飛来数」を算出した上で、数値を地域ごとに合算して示しています。そのため、地域別の個体数指標値の最大値が1とならない場合があります。

2010年頃から大きな群れが増えてきている？

図4は、「[ガンカモ類の生息調査](#)（ガン、カモ、ハクチョウ類の冬期生息状況を把握することを目的として、都道府県の協力を得て1970年から毎年1月に実施している個体数調査）」で毎年1月にトモエガモがカウントされた地点ごとの個体数の年変化を蜂群図（beeswarm plot）で示したものです。これを見ると2010年ごろから数千羽以上のサイズの群れの記録が増えてきているようです。トモエガモの飛来数は、韓国で越冬していた一部が日本に飛来した、またはロシアで繁殖状況が良かった年に増えている可能性があります。

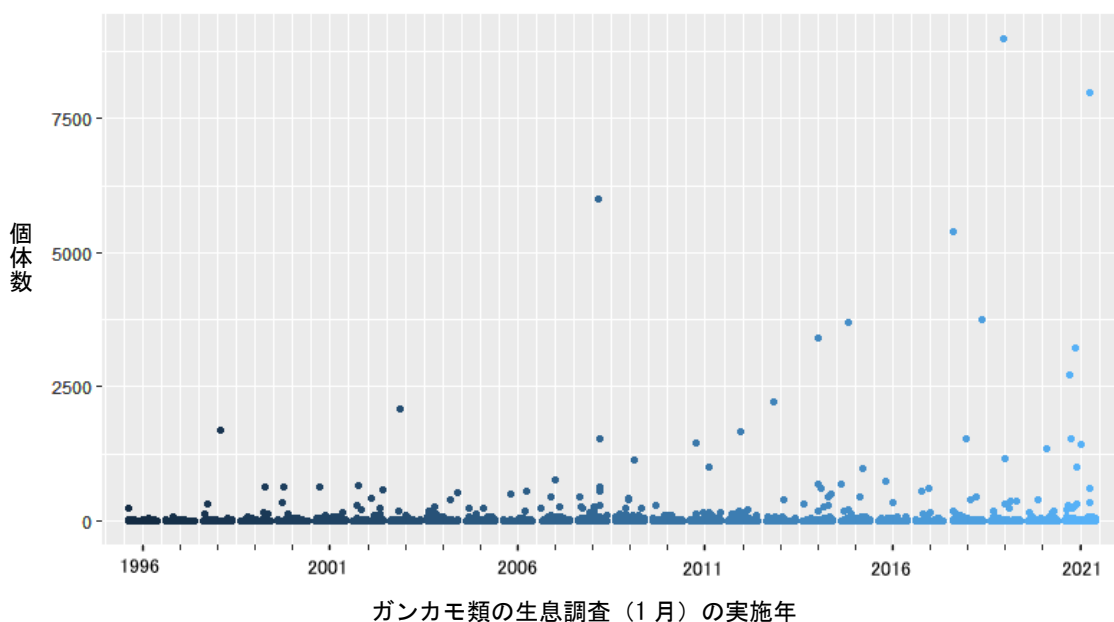


図4. トモエガモの飛来数